

(別紙様式)

「帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域」最終報告書

都道府県名 京都府

地域名 宇治市

帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域の概要

1 平成 14 年 9 月 1 日現在の推進地域内の以下の児童生徒数

	小学校		中学校		合計	
	児童数	学校数	生徒数	学校数	児童生徒数	学校数
(1) 海外帰国児童生徒在籍数	22	9	8	5	30	14
(2) 中国等帰国児童生徒数	29	3	11	5	40	8
(3) 日本語指導が必要な外国人児童生徒数	23	2	10	1	33	3

2 推進地域の特色

宇治市は、宇治川を挟んで世界文化遺産である平等院や宇治上神社等の伝統文化と風光明媚な自然に恵まれ、地場産業の宇治茶は高級茶として全国に知られている。平成 13 年に市制 50 周年を迎え、人口約 19 万人の京都府南部の中核都市である。

推進地域センター校である平盛小学校、南宇治中学校は、市の南西部に位置し、校区には中国帰国者の家庭が約 120 世帯ある。

また京都大学官舎を校区に持つ南部小学校では、様々な国からの研究者や留学生の子弟(8名)が在籍している。

3 帰国・外国人児童生徒の実態(学校生活への適応状況、日本語能力の程度等)

(1) 日本語と中国語の習得がどちらも不十分なことから情緒不安定を起こす児童が見られる。特に、幼児期に帰国した児童及び日本生まれの児童は、家族ともコミュニケーションが上手く取れない状況が見られる。

(2) 日本語の語彙力が不十分なため、言語や文章での表現、思考や判断に弱さや曖昧さをもつ児童が多い。

(3) 最近帰国児童の保護者に、1～2ヶ月程度中国へ帰省したり、半年ほど児童を中国の親戚に預けたり、中国の学校に行かせたりという傾向が最近増えて来ている。そのため中国語や日本語の獲得や教科学習の定着に課題が生じている。

(4) 中学校の生徒では言語能力、学力の問題から、進路に対する不安を持っている。

(5) 南部小学校在籍の外国人児童は多国籍ではあるが、日本語習得がはやく、学校生活への適応も比較的良い。

帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域センター校の概要

1 センター校の学校名、校長名、学校規模、住所、電話、ホームページアドレス等

学校名 平盛小学校	校長名 森川滋夫	学校規模 学級数 15 児童数 369名
住所 〒 611-0033 宇治市大久保町平盛 9 1 - 3		: 0774-39-9140 FAX : 0774-39-9141 http://www1.kyoto-be.ne.jp/hiramori-es/
学校名 南宇治中学校	校長名 牧崎幸夫	学校規模 学級数 11 生徒数 327名
住所 〒 611-0033 宇治市大久保町平盛 3 1 - 5		: 0774-39-9168 FAX : 0774-39-9169 http://www1.kyoto-be.ne.jp/minamiuji-jhs/

交通機関：近鉄電車 大久保駅下車 京阪宇治交通バス「府営西大久保団地」下車徒歩5分

2 センター校への通級児童生徒数(外国人児童生徒の場合は母語が分かるように記入)

センター校名	通級児童生徒数	母 語
平盛小学校	42名	中国語
南宇治中学校	21名	中国語

3 センター校での指導時間及び指導内容

センター校名	指導時間	指導内容
平盛小学校	週 61H	初期指導・基本語彙指導・教科指導の3段階(注1) 習熟の程度に応じた個別指導(注2)
南宇治中学校	週 38H	日本語指導を含む教科指導(個別指導)、進路指導

注1 初期指導：日常生活における基本的な日本語指導

基本語彙指導：学校生活、社会生活に必要な日本語指導

教科指導：教科学習に必要な日本語指導

注2 習熟の程度に応じた個別指導：国語の「言語事項」領域、算数の「数と計算」領域を中心とした習熟度別個別課題による基礎学力定着に向けた指導

4 センター校を中心とする帰国・外国人児童生徒の指導協力体制について

平盛小学校には3名、南宇治中学校には2名の日本語教室担当加配教員があり、帰国・外国人児童生徒は日本語の習得状況により、3段階指導や個別指導、進路指導を行っている。

在籍学級担任による教科学習定着のための細かな配慮や支援を行っている。

帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進体制の整備

1 教育国際化推進連絡協議会の概要

(1) 構成員：学識経験者、PTA、地域、帰国者、学校、教育委員会 24名

(2) 活動状況(実施した事業等について具体的に記述)

ア 宇治市教育国際化推進連絡協議会 年間3回開催

(ア) 推進地域、帰国・外国人児童生徒在籍校の取組状況の交流

(イ) 学校と地域の連携による教育の国際化の進め方の研修・研究協議

(ウ) 帰国・外国人児童生徒への指導の在り方及び国際理解教育、異文化理解の推進のための提言・支援

企画・立案機関として国際化推進委員会及び事務局を設置している。

イ 教育国際化シンポジウム

宇治市教育委員会主催「学校ルネッサンス・フォーラム」の一環として、センター校における研究実践をはじめ、市内の各小・中・高等学校の帰国子女教育や国際理解教育など、教育の国際化を目指した取組を交流するとともに、教育の国際化についての現状や課題を広く市民に紹介し、今後の研究実践に向けた展望を探る。

(ア) アトラクション：中国・インドネシアの紹介や舞踊、龍踊り、中国武術「長拳」の演舞

(イ) 意見発表(帰国卒業生、英語指導助手)

(ウ) 日本語教室担当者、国際理解教育推進校、地域の国際交流クラブ代表者等5名のパネリストによる「教育国際化の現状と展望」と題したパネルディスカッション

(エ) 展示：小・中・高等学校13校による特色ある国際理解教育の取組を作品や写真等で紹介

(オ) ストリートパフォーマンス：龍踊り、中国武術「長拳」の演舞、太極拳

(カ) ロビーコンサート：二胡の演奏、ペルー音楽

(3) 協議会設置の効果

ア 多彩な委員の構成により、教育の国際化等の在り方、学校と地域の連携について幅広い意見交流の場となり、学校や地域の取組の活性化を図ることができた。

イ 推進地域における帰国・外国人児童生徒、保護者や地域の状況を把握すると共に相互の連携を図ることができた。

ウ 学校と地域が一体となって教育の国際化の進め方を研修する機会をもつことができた。

エ 「教育国際化シンポジウム」では、広く市民にセンター校の取組や教育国際化の現状や課題を紹介することができた。

2 加配教員の活用状況

(1) 本事業の事務局として会議・活動等の企画・運営

(2) 地域・関係機関・諸団体等との連絡調整及び地域人材活用、事務連絡

(3) 帰国・外国人児童生徒の在籍校との連絡

(4) 校内研修の企画・運営及び日本語教室等の連絡調整

3 教育相談員の派遣状況及びその効果について

特になし。但し、日本語指導教員が教育相談に当たっている。

平成 14 年度の具体的な取組内容とその成果等について

1 研究主題(主題の趣旨・設定理由についても触れること)

- (1) 研究主題：「帰国・外国人児童生徒の『生きる力』を育むために～地域と共に進める国際理解教育」- 出会い・広がり・世界へ -
- (2) 主題の趣旨：帰国・外国人児童生徒等の実態を踏まえ、学校と地域が連携して、教育の国際化を進め、児童生徒の『生きる力』を育成する。
- (3) 設定の理由：特に中国帰国児童生徒の日本での自立や社会性の基盤となる日本語習得、基本的な生活習慣の確立のための支援が必要である。一方、その他の児童生徒は中国をはじめアジアを中心とした国々の文化への理解が必要である。地域社会との連携の下での帰国・外国人児童生徒等とその他の児童生徒相互の啓発や国際理解教育の推進に期待できると考えた。

2 研究主題に関連した活動及びその成果

- (1) 日本語指導に必要な中国等帰国・外国人児童生徒の受け入れ体制の整備・充実及び個に応じた教育課程・指導方法の工夫
 - ・ 3 段階指導(前述)により日本語習得及び基礎学力の充実を図った。
 - ・ 体験学習、問題解決学習、コンピュータ等の活用など指導方法の工夫改善を図った。
- (2) 地域等の人材活用を通して、我が国の伝統文化、外国の生活文化を理解し、相互に尊重し合う国際理解教育の推進を図った。

3 推進地域としての取組及びその成果

- (1) 地域に学校を公開し、地域の帰国者、外国人をゲストティーチャーとして招き、児童生徒や地域の人と共に体験活動を通じた国際理解教育を進め、人間理解・異文化理解を深めることができた。

例 1：国際フェスティバル(平盛小学校)

大阪中華学校児童生徒等との交流活動(中国の民族舞踊、アフロパーカッション&ダンス、インド舞踊、韓国舞踊等)により、相互理解を深めた。

例 2：アジアンウィーク及びアジアンフェスティバル(南宇治中学校)

教科、「総合的な学習の時間」において、外国人等をゲストティーチャーとして招き、体験を通して国際交流活動や異文化・日本文化を学んだ。

例 3：平盛ふるさとまつり(平盛学区青少年健全育成協議会)

『平盛ふるさとまつり』で「水餃子コーナー」を昨年度に続き実施した。このまつりは西大久保団地に住む人たちの重要なまつりとして定着しており、中国帰国の人たちと地域の人たちとの交流の場の一つとして、準備から当日のコーナーを帰国保護者や地域の人と共に運営した。

例 4：こどもまつり(平盛小学校 P T A)

P T A が毎年実施している『こどもまつり』のコーナーの一つに、昨年度より「中国の遊びコーナー」を設けている。中国のゴム跳びやメンコ遊び、チャオ等を帰国保護者が子どもたちに教えるコーナーである。

- (2) 教育国際化シンポジウム(前述)により相互啓発及び地域連携による教育の国際化の方途を探ることができた。
 - (3) 「学校と地域」「地域とボランティア団体」「ボランティア団体と学校」とのネットワーク作りに進展が見られ、社会人講師の派遣等の人材マップ作りの整備も進んでいる。
- 4 帰国・外国人児童生徒とその他の児童生徒の相互啓発の観点による取組及びその成果
- (1) 「総合的な学習」での日本語教室や地域の帰国者への理解を進める学習活動
 - (2) 学校教育活動全体を通じて、中国文化や世界の文化に触れたり、中国語の息づくような中国語活動の推進
 - (3) 帰国児童が「団地のきまり」等を学習し、帰国保護者に「報告会」をすることで、帰国保護者が団地の生活を理解する機会となった。さらに、全校児童へも帰国児童が学習したことを報告することで、相互啓発につなげることができた。
- 5 地域と連携した活動(民間企業、地域の人材の活用状況等)及びその成果
- (1) 中国料理講習、中国の遊び、中国民族舞踊等において中国帰国者の協力を得て、教育活動を進めることができた。
 - (2) 教科学習、国際交流学习における地域社会人講師、外国人講師等の活用により、中国文化(中国武術、龍踊り、水餃子料理、水墨画等)をはじめ、諸外国の文化や日本文化(茶道等)にも触れる機会が増えた。
 - (3) 帰国卒業生と教職員の懇話会の実施により、帰国児童生徒の願いや悩みについて理解を深めることができた。
 - (4) 「中国帰国者の話を聞く会」(宇治市“まなびチャレンジ奨励事業”)では、帰国された方々に日本人への同化を求めるのではなく、“中国的”な部分を認め、尊重し合うことの大切さや、共生と共存についての理解を求めることができた。
- 6 連携した団体等の概要
- (1) 地域の自治会、青少年健全育成協議会、福祉委員会、喜老会、PTA等(行事等への参加)
 - (2) 京都府国際交流センター、京都市国際交流協会、宇治市国際交流クラブ、太極拳連盟、NGO日本国際民間協力会、神戸南京町舞龍隊、日本中国水墨画協会等(社会人講師等の派遣)
- 7 その他の特筆すべき平成14年度の成果と課題
- (1) 成果
 - ア 日本語教室等における児童生徒への個に応じた教育課程及び指導方法の工夫・改善に努めることができた。
 - イ 帰国・外国人児童生徒とその他の児童生徒の相互啓発を通しての国際理解教育の充実を図ることができた。
 - ウ 日本語教室及び国際理解教育に関する学習活動を地域に公開したり、地域を知る学習の推進を図ったりすることができた。

- エ 学校と地域社会との一体化の下での教育国際化の推進を図ることができた。
- オ 幼稚園・小・中学校及び高等学校等との連携した帰国児童生徒教育・外国人児童生徒教育の推進に努めることができた。
- カ 地域の諸団体、国際交流団体 及び関係機関等との一層の連携を図ることができた。
- キ 教育の国際化の進め方についての教職員研修を推進することができた。
- ク 国際理解、相互啓発のためのシンポジウムの実施により、広く市民に事業を紹介することができた。

(2) 課題

- ア 日本語指導が必要な帰国・外国人児童生徒の受入体制の一層の整備充実
- イ 帰国・外国人児童生徒の個に応じた教育課程の編成及び指導方法の一層の工夫・改善
- ウ 帰国・外国人児童生徒とその他の児童生徒の相互啓発を通じた国際理解教育の一層の推進
- エ 帰国児童生徒の社会的自立を図るための進路追跡調査の実施
- オ 学校と地域社会が一体となった教育国際化の一層の推進
- カ 文化や考え方の違いを認め合う異文化に対する理解教育の一層の推進